nikko am
Nikko Asset Management

グローバルＣｏＣｏ債ファンド 円ヘッジコース

追加型投信／内外／その他資産（ハイブリッド証券）

交付運用報告書

第24期（決算日2016年９月20日）　第25期（決算日2016年10月17日）　第26期（決算日2016年11月17日）
第27期（決算日2016年12月19日）　第28期（決算日2017年１月17日）　第29期（決算日2017年２月17日）

作成対象期間（2016年８月18日～2017年２月17日）

第29期末（2017年２月17日）	
基準価額	9,837円
純資産総額	2,148百万円
第24期～第29期	
騰落率	4.4%
分配金（税込み）合計	300円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバルＣｏＣｏ債ファンド　円ヘッジコース」は、2017年２月17日に第29期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、世界の金融機関が発行するハイブリッド証券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

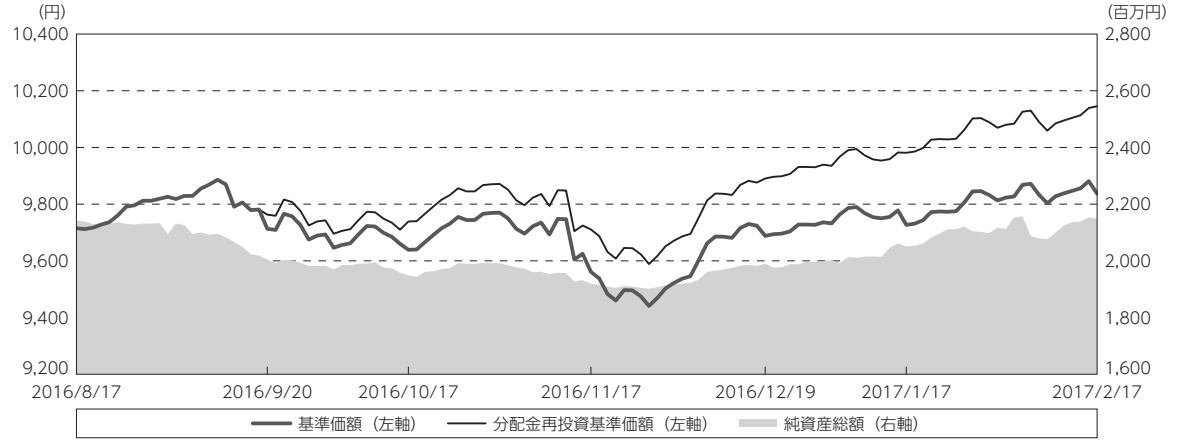
日興アセットマネジメント株式会社
東京都港区赤坂九丁目７番１号
http://www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先
コールセンター　電話番号：0120－25－1404
午前９時～午後５時　土、日、祝・休日は除きます。
●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2016年8月18日～2017年2月17日）



第24期首：9,715円
第29期末：9,837円（既払分配金（税込み）：300円）
騰　落　率：　4.4%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2016年８月17日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界の金融機関が発行するハイブリッド証券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。ハイブリッド証券の中でもＣｏＣｏ債を中心に投資しております。また、為替ヘッジを行なうことにより、為替変動リスクの低減を図っております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

＜値上がり要因＞

・保有銘柄からインカム収益を得たこと。
・保有銘柄の価格が上昇したこと。

＜値下がり要因＞

・米国、英国および欧州の国債金利の上昇がパフォーマンスにマイナスに作用したこと。

１万口当たりの費用明細

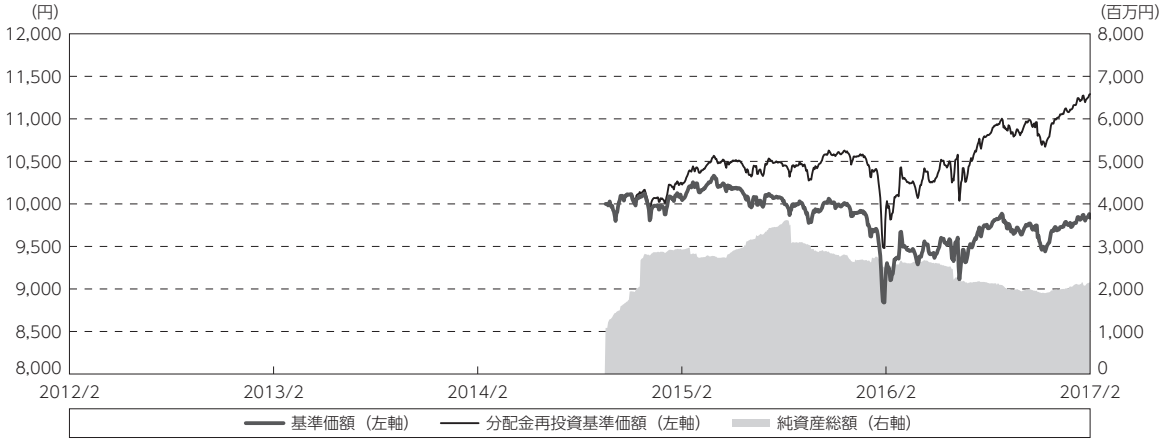
（2016年8月18日～2017年2月17日）

項目	第24期～第29期 金額	第24期～第29期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	50	0.517	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(17)	(0.174)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(32)	(0.327)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	5	0.050	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(5)	(0.048)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合計	55	0.567	
作成期間の平均基準価額は、9,719円です。			

（注）作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注）当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「１万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。
（注）この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合もあります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2012年2月17日～2017年2月17日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）当ファンドの設定日は2014年10月1日です。

	2014年10月1日 設定日	2015年2月17日 決算日	2016年2月17日 決算日	2017年2月17日 決算日
基準価額　(円)	10,000	10,065	9,089	9,837
期間分配金合計(税込み)　(円)	－	180	570	600
分配金再投資基準価額騰落率　(%)	－	2.5	△　4.4	15.2
純資産総額　(百万円)	1,084	2,928	2,563	2,148

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年2月17日の騰落率は設定当初との比較です。
（注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

（2016年8月18日～2017年2月17日）

（ＣｏＣｏ債市況）

2016年８月のＣｏＣｏ債市場は、６月の英国における欧州連合（ＥＵ）離脱を問う国民投票後の下げからの上昇基調を維持しました。低金利環境のもと、市場のボラティリティ（変動性）が低下したことから、ＣｏＣｏ債市場は投資家の利回りニーズを集めました。９月には、過去の住宅ローン担保証券の販売を巡り、ドイツ銀行が米国司法省から140億米ドルの支払いを要求されたことがネガティブ・サプライズとなり、ＣｏＣｏ債市場は下落しました。ただ、投資家はドイツ銀行のニュースを冷静に受け止め、その悪影響の他の銀行への波及が限定的であったことから、10月のＣｏＣｏ債市場は反発しました。期間中で最大のイベントとなったのは、11月の米国大統領選挙でした。共和党候補が予想外の勝利を収めたことを契機に、先行きの経済成長が加速し、インフレ率が上昇するとの観測が高まったことから、世界的に国債金利が大きく上昇しました。11月のＣｏＣｏ債市場のリターンはマイナスとなりました。12月以降、期間末にかけては、米国国債金利の上昇が一服すると同時にボラティリティが低下したこと、リスク性資産全般が騰勢を強めたことから、ＣｏＣｏ債市場は11月をボトムにほぼ一本調子の上昇となりました。12月のイタリアの国民投票および同国の首相の辞任は材料視されませんでした。欧州諸国のデフレ懸念が後退し、かつ金利上昇により銀行の業績が改善に向かうとの見方が広がったことも、ＣｏＣｏ債市場の好調を後押ししました。

（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの－0.04％近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、－0.05％近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（ＴＢ）３ヵ月物金利は、期間の初めの－0.23％から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けてマイナス圏での推移が続き、－0.27％近辺で期間末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2016年8月18日～2017年2月17日）

（当ファンド）

収益性を追求するため「グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド ＪＰＹヘッジド・クラス」円建受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド ＪＰＹヘッジド・クラス）

Ｇ-ＳＩＦＩｓ（グローバルなシステム上重要な金融機関）に含まれる銀行を中心としたＣｏＣｏ債、ハイブリッド証券を主たる投資対象とし、相対的に投資妙味が高いと判断した銘柄に投資を行ないました。ポートフォリオのデュレーション（金利感応度）は3.5～4.5年、平均格付けはＢＢ＋としました。発行体は20前後、40銘柄程度に分散投資しました。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年8月18日～2017年2月17日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

（2016年8月18日～2017年2月17日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項　　目	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
	2016年８月18日～2016年９月20日	2016年９月21日～2016年10月17日	2016年10月18日～2016年11月17日	2016年11月18日～2016年12月19日	2016年12月20日～2017年１月17日	2017年１月18日～2017年２月17日
当期分配金	50	50	50	50	50	50
（対基準価額比率）	0.512%	0.516%	0.520%	0.513%	0.511%	0.506%
当期の収益	48	50	49	50	50	50
当期の収益以外	1	－	0	－	－	－
翌期繰越分配対象額	251	252	251	257	260	265

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、「グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド　ＪＰＹヘッジド・クラス」円建受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド　ＪＰＹヘッジド・クラス）

金融危機から８年が経過しました。銀行セクターでは、引当金の減少、貸出の伸長、費用削減、業績改善を映じた配当金の増加などの良好なトレンドが認められます。金融当局による新たな銀行規制策定に関する不透明感が払拭されつつあることもプラスです。

現在は、景気浮揚トレンドにより、これまで世界の投資家から安値に放置されていたセクターの値上がりの恩恵を狙える状況にあると考えられます。日本や欧州などの先進国で金利が低水準にとどまっているなかで、利回りを求めるグローバル投資家のＣｏＣｏ債に対する需要は高止まりすると見込まれます。

今後もＧ-ＳＩＦＩｓに含まれる銀行を中心としたＣｏＣｏ債、ハイブリッド証券を主たる投資対象とし、新規発行証券への投資も検討しながら、運用を継続する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

お知らせ

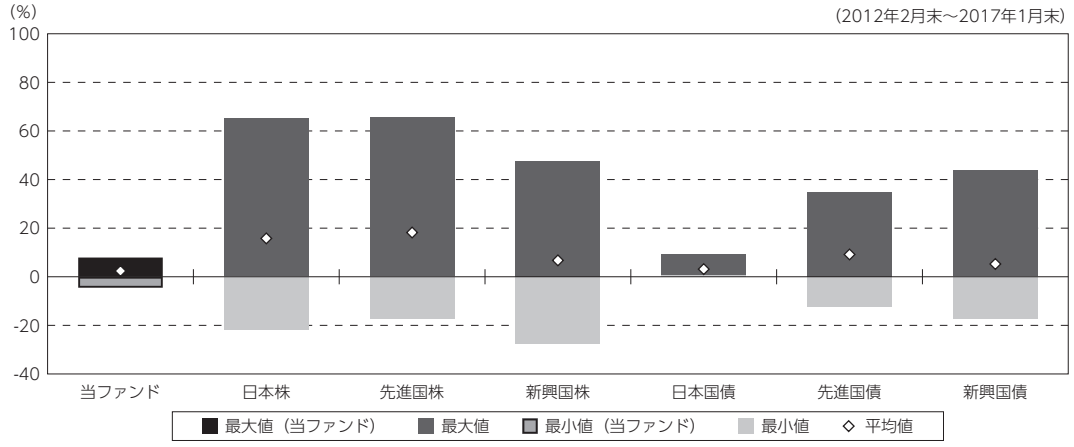
2016年８月18日から2017年２月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（ハイブリッド証券）
信託期間	2014年10月１日から2024年８月19日までです。
運用方針	主として、世界の金融機関が発行するハイブリッド証券を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド ＪＰＹヘッジド・クラス」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、世界の金融機関が発行するハイブリッド証券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。ハイブリッド証券の中でもCoCo債を中心に投資します。為替ヘッジを行なうことにより、為替変動リスクの低減を図ります。
分配方針	第１計算期は収益分配を行ないません。第２計算期以降、毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	7.9	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 4.5	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	0.5	△ 12.3	△ 17.4
平均値	2.4	15.8	18.2	6.7	3.1	9.2	5.3

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注）2012年２月から2017年１月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2015年10月以降の年間騰落率を用いております。
（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》
日 本 株：東証株価指数（TOPIX、配当込）
先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）
日本国債：NOMURA-BPI国債
先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）
（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。**●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）**は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。**●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）**は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。**●NOMURA-BPI国債**は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。**●シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）**は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。**●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）**は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

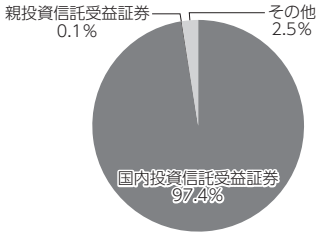
（2017年2月17日現在）

○組入上位ファンド

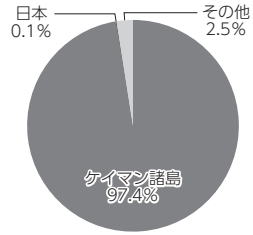
銘柄名	第29期末
	%
グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド ＪＰＹヘッジド・クラス	97.4
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

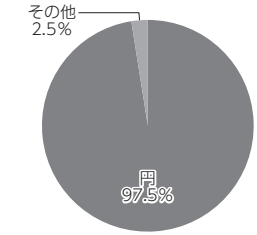
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
（注）国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。
（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

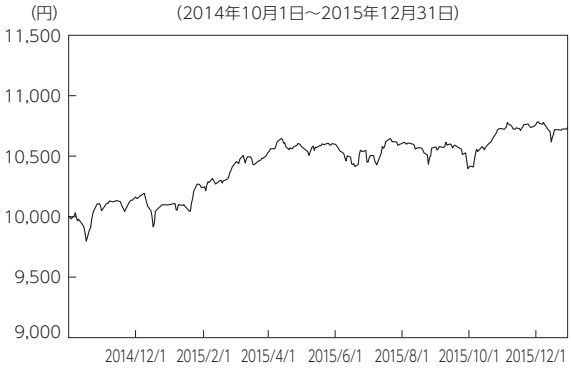
項目	第24期末	第25期末	第26期末	第27期末	第28期末	第29期末
	2016年９月20日	2016年10月17日	2016年11月17日	2016年12月19日	2017年１月17日	2017年２月17日
純資産総額	2,004,667,997円	1,948,688,849円	1,918,926,832円	1,989,657,260円	2,050,981,998円	2,148,089,755円
受益権総口数	2,063,889,084口	2,021,662,028口	2,006,956,924口	2,053,719,959口	2,108,447,470口	2,183,593,786口
１万口当たり基準価額	9,713円	9,639円	9,561円	9,688円	9,727円	9,837円

（注）当作成期間（第24期～第29期）中における追加設定元本額は483,069,777円、同解約元本額は503,968,577円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンド ＪＰＹヘッジド・クラス

【基準価額の推移】



【１万口当たりの費用明細】

(2014年10月1日～2015年12月31日)

当該期間の１万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

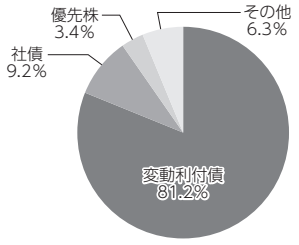
【組入上位10銘柄】

(2015年12月31日現在)

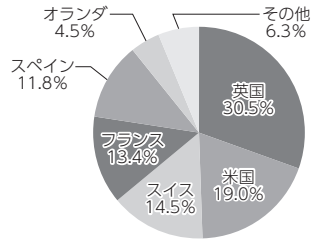
	銘柄名	業種／種別等	国（地域）	比率
				%
1	Lloyds Bkg FRN Perp	変動利付債	英国	4.3
2	JPM Chase FRN Perp1	変動利付債	米国	4.2
3	Barclays Bank FRN Perp	変動利付債	英国	3.5
4	UBS Ag 5.125% 15-May-24	社債	スイス	3.5
5	Countrywide Cap V 7 Prf Nov-66	優先株	米国	3.4
6	Bbva FRN Perp3	変動利付債	スペイン	3.3
7	Credit Agricole FRN Perp8	変動利付債	フランス	3.2
8	HSBCHoldings FRN Perp2	変動利付債	英国	3.1
9	Barclays Plc FRN Perp	変動利付債	英国	3.1
10	Credit Suisse Ag 6.5% 8-Aug-23	社債	スイス	3.0
組入銘柄数		44銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



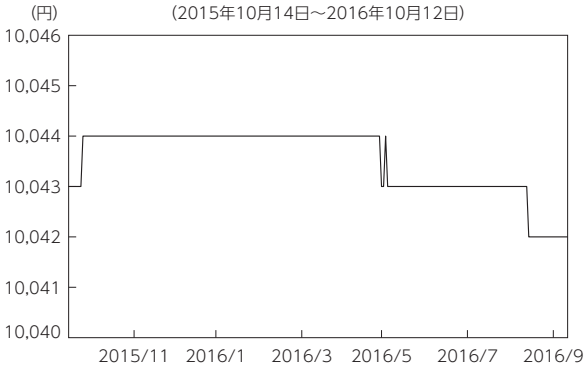
【通貨別配分】

※必要な情報が開示されておりません。

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】



【１万口当たりの費用明細】

(2015年10月14日～2016年10月12日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000
期中の平均基準価額は、10,043円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2016年10月12日現在)

2016年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

グローバルＣｏＣｏ債ファンド　円ヘッジコース
交付運用報告書に関するお知らせ

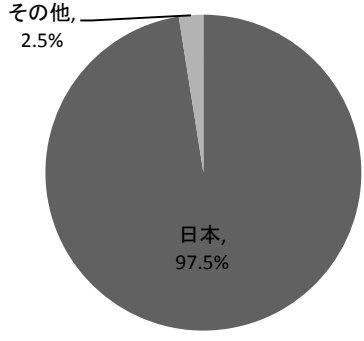
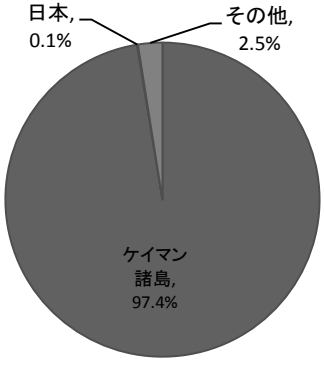
平素は、弊社投資信託に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて今般、標記投資信託の交付運用報告書におきまして一部に記載不備がありましたので、下記の通り訂正し、深くお詫び申し上げます。

記

「組入資産の内容」の項目内の「国別配分」の円グラフの内容に不備がありました。

【対象となる交付運用報告書】
グローバルＣｏＣｏ債ファンド　円ヘッジコース
第１期から第５期　（決算日2015年２月17日）10頁
作成対象期間（2014年10月１日～2015年２月17日）

誤



正